

目 次

第 38 回日本基礎老化学会シンポジウム	1
特集企画「～老化研究の最前線～ in アメリカ NIH」	9
総説	
Aging research in the era of -omics ～ experiences at the National Institute on Aging Toshiko Tanaka	11-18
総説	
シグマ -1 受容体研究の最前線－神経変性疾患におけるシグマ -1 受容体の多彩な役割－ 中村 庸輝	19-26
総説	
心拍数と心筋収縮における老化性機能低下と「coupled-clock system」 筒井 健太、Oliver Monfredi、Edward G Lakatta	27-36
奨励賞トピックス	
糖鎖制御異常を介したポリコーム蛋白質のがん促進機構 山越 貴水	37-40
奨励賞トピックス	
がん悪液質における身体部位特異的な筋応答 吉岡 潔志、小野 悠介	41-43
奨励賞トピックス	
マウスにおける老化細胞除去は肺気腫関連疾患を改善する 三河 隆太	45-48
奨励賞トピックス	
SOD が代謝するスーパーオキシドによる細胞死決定機構 渡辺 憲史、澁谷 修一、小澤 裕介、清水 孝彦	49-52
大会報告	
第 40 回日本基礎老化学会大会を振り返って ～もう一つの基礎老化の集い～ 丸山 光生	53-54
大会見聞録	
第 30 回日本老年学会・第 40 回日本基礎老化学会大会合同会 近藤 嘉高	55-56

表紙図の説明：マウスの顎下腺ムチンの糖鎖分析。野生型マウスは Core1 型の糖鎖組成であるのに対し、Bmi1 遺伝子欠損マウスは Core2 型の糖鎖組成の割合が高くなっている（37-40 ページの総説を参照）。